長崎県防衛協会会長　長崎県知事　大石賢吾

新年明けましておめでとうございます。

佐世保自衛隊後援会の皆様、そして自衛隊及び関係団体の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

佐世保自衛隊後援会におかれましては、日頃から、自衛隊に対する理解の促進や海上自衛隊佐世保地方隊、陸上自衛隊相浦駐屯地等の活動へのご協力・ご支援・激励など幅広く活動され、成果をあげておられますことに深く敬意を表します。

昨年2月の知事選挙におきまして、長崎県知事として県政のかじ取りを担わせていただくこととなり、これまで、中村前知事からの継続性も重視しながら、県政の発展に全力で取り組んでまいりました。

本年も、県民の皆様のご期待に応えることができるように、様々な取り組みを進めていきたいと考えております。

さて我が国を取り巻く安全保障環境を振り返りますと、ロシアのウクライナ侵略や北朝鮮の度重なるミサイル発射など一層の厳しさを増し、様々な課題や不安要素が顕在化しております。

このような不安定な国際情勢の中におかれても、自衛隊の皆様は、「わが国の平和と独立を守り、国民の安全を確保する」という崇高な使命のもと、日々厳しい訓練を重ねられ、国家防衛、災害派遣活動、国際平和維持活動など、様々な活動を通して、国内外から厚い信頼と高い評価を得ておられます。

本県におきましても、雲仙普賢岳噴火災害における派遣活動をはじめ、その他多くの自然災害に伴う災害派遣に出動していただいており、海上自衛隊による離島地域からの急患搬送は、昭和33年の開始からすでに約5,200回を超えるなど多くの県民の命を救っていただいておりますことに深く感謝申し上げます。

また昨年2月には大村市に所在する陸上自衛隊竹松駐屯地への水陸機動連隊の配置決定のお知らせを防衛省からいただき、国境離島をはじめ多くの離島を有する当県としましては非常に心強く思っております。

今後とも、長崎県防衛協会といたしましては、佐世保自衛隊後援会と連携し、様々な活動を通じて自衛隊に対する協力支援、県民の防衛意識の高揚に努めてまいりたいと存じます。

本県は100年に一度の変革の時期を迎えております。この変革の時期をチャンスとして捉え、新年においても色々な取組を通じて、「新しい長崎県づくり」「選ばれる長崎県づくり」の実現に向け、県民の皆様と思いを一つにしながら全力を尽くしてまいります。

結びに、佐世保自衛隊後援会の限りないご発展並びに関係皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

佐世保市長　朝長則男

あけましておめでとうございます。

佐世保自衛隊後援会の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

佐世保自衛隊後援会におかれましては、昭和28年、海上警備隊の佐世保誘致における地元支援団体の母体として佐世保商工会議所内に設置された外郭団体を原点とし、本年、発足70周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

佐世保市に所在する海上自衛隊、陸上自衛隊、ひいては全国の自衛隊を支援する後援団体として、自衛隊の発展と地域経済の発展に寄与するため、数々の活動を続けておられますのは、金子会長をはじめ歴代会長の皆さまならびに会員の皆さまの熱意とご尽力の賜であると深甚なる敬意とともに感謝の意を表する次第であります。

さて、我が国を取り巻く情勢は、中国による東シナ海などにおける現状変更を試みる活動、北朝鮮による頻繁なミサイル発射、台湾問題、さらにはウクライナ侵略を強行したロシアの存在など、今まで以上に緊張感が増しており、安全保障上の不安定要因はますます深刻化しています。

このような中、自衛隊の皆さまは、我が国周辺空海域の警戒監視や海外任務に加え、大規模自然災害にも即時に対応できるよう日々訓練に精励されており、自衛隊に寄せられる期待は、年々大きくなってきております。こうしたことからも、強い使命感の下、国内外において重要な任務を遂行されている隊員の活動を佐世保自衛隊後援会の皆さまが支援しておられますことは、大変意義深いことと存じます。

明治22年の佐世保鎮守府開庁以来、基地と共に歩んできた本市といたしましても、令和4年2月に「佐世保市基地政策方針」を策定し、「我が国の防衛政策推進への積極的な協力・支援」「基地の所在を積極的に活かしたまちづくりの推進」「基地に起因する負担の軽減と課題の解決」の3つの方向性を定め、今後も「基地との共存共生」をより充実させていくことで自衛隊の皆さまへの支援と地域経済の発展に努めていく所存であります。

また、現在、崎辺地区におきまして、海上自衛隊の大型係留施設の工事が継続中でありますが、今後も自衛隊施設の整備・増強に関しましては、意を用いてまいる所存です。併せまして、商工会議所など経済界とも連携しながら、退職自衛官の再就職支援やご家族の生活支援など、隊員の皆さまが任務に専念できる環境づくりに向けた取り組みを引き続き進めてまいりますので、皆さまにおかれましても、ご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

佐世保自衛隊後援会会員の皆さまをはじめ、自衛隊員の皆さまならびにご家族様のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げますとともに、本年も素晴らしい年となりますようお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。

佐世保地方総監　海将　西成人

新年明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、令和5年の新春を穏やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、佐世保自衛隊後援会の皆さまには、平素から自衛隊の諸活動に対し、深い御理解と温かい御支援、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私は、一昨年12月22日に第47代佐世保地方総監を拝命し一年が経過しました。西海鎮護の要として、帝国海軍からの歴史と伝統が息づくこの佐世保の地において、勤務できることは身に余る光栄であり、その重責に改めて身の引き締まる思いです。佐世保地方隊の指揮官として、今後も海上自衛隊の良き伝統をしっかりと引き継ぎつつ、さらなる即応態勢の維持・強化に邁進する所存です。

さて皆様もご認識のとおり、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い生活様式が日々変わる中、2月24日に、ロシアによるウクライナ侵攻等が生起しました。これは人類が先の大戦後脈々と築き上げてきた国際秩序を大きく揺るがすもので、世界にとって大きな衝撃となりました。国際社会は、国家主体によって他国への侵攻が生起するという現実を突きつけられました。これは決して遠い欧州だけの事態ではなく、権威主義・専制主義国家を隣国とする我が国周辺においても起こり得るものと言えます。

このような情勢下、我々海上自衛隊はあらゆる事態に対処すべく、先日佐世保に配備された最新鋭の護衛艦「のしろ」をはじめとした戦力の増強及び装備の強化を推進しております。また、「精強・即応」をモットーとして平素から警戒監視や訓練等に邁進し、特にこれらを「平素における闘い」と位置づけています。私も常日頃から隊員達に対してこの「平素における闘い」に勝ち抜くという強い意識と覚悟をもつよう指導しており、隊員達は、南西諸島、東シナ海等「平素における闘い」の最前線で闘う防人である自覚と誇りをもって、日々額に汗を流して頑張っております。

佐世保地方隊は今年、70周年の節目を迎えます。これまで皆さまから頂きました多大なご支援ご協力に改めて感謝申し上げますとともに、本年も引き続き海上自衛隊佐世保地方隊に対して、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒お願い申し上げます。

結びに今年一年が佐世保自衛隊後援会の皆様、そして我が国にとりまして平和で穏やかな年となることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

水陸機動団長兼相浦駐屯地司令　陸将補　梨木信吾

明けましておめでとうございます。佐世保自衛隊後援会の皆様におかれましては、令和五年の心穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には平素より陸上自衛隊水陸機動団及び相浦駐屯地・崎辺分屯地に対し、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境はより一層厳しさを増しています。強大な軍事力を有する国家などが集中し、軍事力のさらなる強化や軍事活動の活発化の傾向が顕著になっています。

昨年2月ロシアによるウクライナ侵略は、国連安全保障理事会の常任理事国であるロシアが、他国の領土の一体性や政治的独立を脅かす武力の行使を禁じた国連憲章や国際法を無視し、大規模な武力行使によって現状変更を試みるという、まさに国際秩序の根幹を揺るがす事象が生起しました。この事態の最中にも、中国、ロシアの艦艇や航空機の活動が、我が国周辺でも非常に活発化している現状です。

日本国内においても、各地で豪雨災害、台風の上陸等の自然災害が頻発し、自衛隊として対応しているところであります。

このように、我が国を取り巻く安全保障環境は、格段に速いスピードで厳しさと不確実性を増しています。この変化する安全保障環境を直視すれば、防衛省・自衛隊は創設以来の大きな変化の真っただ中にあるといっても過言ではありません。我々は、この環境の変化に主体的に、かつ、的確に対応しなければなりません。

水陸機動団としても、昨年は、国内外において海自艦艇・空自との連携及び「自由で開かれたインド太平洋」を実現するため共通の価値観をもつ同盟国・友好国との共同訓練等、水陸両用作戦能力の更なる向上を図ることができました。

加えて、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていなかった水陸機動団創隊四周年及び相浦駐屯地開設六十七周年記念行事を三年ぶりに開催することができました。

本年度はいよいよ、南西防衛態勢強化の一環として、水陸機動団の新改編事業が行われます。第三水陸機動連隊等が竹松駐屯地及び相浦駐屯地で新改編され、約3,000名を超える部隊として、水陸機動団が生まれかわります。

本年も予断を許さない国際情勢の中、自衛隊の責務は一層重く、国民、地域の皆様からの期待もより大きくなっていることを自覚して、部隊・隊員の育成に努めて参る所存です。特に水陸両用作戦能力を向上するために必要な海自艦艇・空自との連携、米海兵隊との共同訓練等、水陸機動団である我々にしかできない能力の向上を図って参ります。

最後に本年も水陸機動団及び相浦駐屯地・崎辺分屯地に対する変わらぬ御理解と御支援をお願い申し上げますとともに、皆さまにとりまして本年が輝かしい希望に満ち溢れた一年となりますことを祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせて頂きます。